

(3) 中学校国語

① 複数の資料を比較して読み、要旨を捉えること【B2-1】

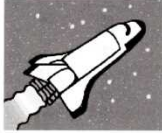
■飛行機

飛行機の機体を組み立てるときにも接着剤を使います。以前はリベット（びょう）でとめていましたが、接着剤を利用することで空気抵抗が少なく、機体が軽くなるので、速度性能や燃費が向上しました。また、リベットは点で固定していますが、接着剤でとめると、面で固定できるので、強度を増すことができます。



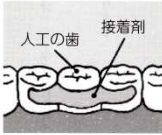
■スペースシャトル

スペースシャトルの表面にはたくさんのタイルが接着剤でつけられています。大気圏に突入するときのまさつねつと宇宙空間での太陽熱にたえるために、スペースシャトルの材料にはタイルが使われています。そのタイルが割れたり、はがれたりするように、弾力があり、1500℃の高温にもたえるすぐれた接着剤が使われています。



■医療用接着剤

歯医者さんで歯につめものをしたり、人工の歯をつけたりするときには医療用の接着剤を使います。また、骨をつなげたり、食道や胃、血管などをつなぎあわせるときに使われる接着剤も開発されています。



■食品の容器

牛乳の紙パックは熱と圧力を加えてくっつけています。プリンやゼリーのふたのフィルムは、しっかりと密閉し、食べるときには簡単にはがせるような接着剤が使われています。



（経済産業省ウェブページによる）

インターネットの情報の一部

のすき間に接着剤が入り込みます。そして、すき間に入った接着剤が固まることで物がくっつきます。これをアンカー効果といいますが、アンカーとは船の錨のことです。接着剤が物をくっつける仕組みを、海の底に錨を下ろし船を留めておく様子に例えて、そう呼んでいます。つまり、液体の状態の物の表面に広く行き渡った接着剤が、すき間に入って固体となることで、物と物とをくっつけているのです。

次に、接着剤が液体から固体になる変化について考えてみましょう。

接着剤を塗ると、顕微鏡で見ると、つるつるしているように見える金属でも、その表面には肉眼では見えない凹凸があることが分かります。そこに接着剤を塗ると、凹凸



2 次は、接着剤について書かれた【本の一部】と「インターネットの情報の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【本の一部】と【インターネットの情報の一部】の内容を比較したときの説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 接着剤が物をくっつける代表的な仕組みについて、【本の一部】では物をくっつける過程を述べ、【インターネットの情報の一部】では図を用いて具体的に説明している。
- 2 接着剤の用途について、【本の一部】では意外な物に使われていることを述べ、【インターネットの情報の一部】では使用場面ごとに項目を立てて具体的に述べている。
- 3 接着剤が液体から固体になる変化の仕方について、【本の一部】では接着剤の種類ごとに述べ、【インターネットの情報の一部】では代表的な例を取り上げて説明している。
- 4 簡単にはがせる接着剤について、【本の一部】では簡単にはがせる仕組みを図を用いて説明し、【インターネットの情報の一部】ではその接着剤を利用した商品を紹介している。

【正答】 2

正答率 (%) 兵庫県 : 31.4、全国 : 31.4 無解答率 (%) 兵庫県 : 0.6、全国 : 0.6

〈誤答の状況〉

- ・「1 接着剤が物をくっつける代表的な仕組みについて……」・・・29.5%
- ・「3 接着剤が液体から固体になる変化の仕方について……」・・・33.5%
- ・「4 簡単にはがせる接着剤について……」・・・4.8%

〈主な原因〉

- ① 選択肢1、3には【本の一部】の内容である「物をくっつける代表的なしくみ」「液体から固体になる変化の仕方」が引いてあり、前半部分については双方正しい。しかし、両選択肢とも【インターネットの情報の一部】の記述について誤りがある。インターネットの情報の要旨をまとめ、言い換えた場合にならぬのかを読み取れなかったと考えられる。
- ② 選択肢4については、【本の一部】に書かれた図が説明する内容を捉えることができなかったと考えられる。

〈今後の指導に向けて〉

現在は誰もが様々なメディアから多様な情報を取得することができる。そのため、それらに振り回されるのではなく得た情報を使いこなす力が必要である。例えば「知りたいこと」を追究する過程で複数の情報の要旨を捉え、それらを比較し、目的に応じたものを適切に選択する力を身につけさせる必要がある。

しかし、生徒たちは、情報がひとつあれば満足し、同一テーマについての異なる情報を比較・検討して読む機会そのものは少ないのが現状であると思われる。国語の教科書教材においても、例えば、説明文を扱う中で、同一テーマでの別資料を比較して読む取組が大切である。

そこで新聞など生徒が普段あまり手に取らないようなものも含めて、多様な資料を読み、比較する学習活動を取り入れたい。普段の授業に組み合わせて継続的に取り組むことにより、複数の資料を読み比べることが習慣づき、前述した力を身につけさせることができると考える。

【例1 グラフや図表と本文との関連】

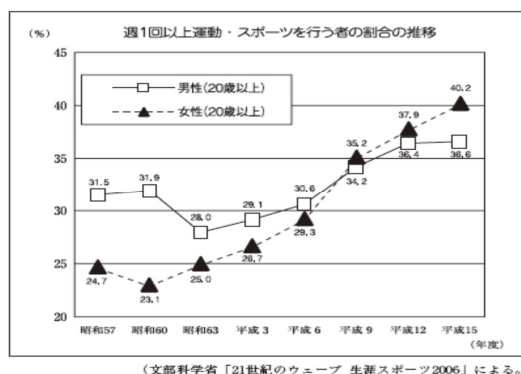
・教科書に本文と共に載せられているグラフや図表などは、本文のどこと対応しているのか、また、グラフはどのような効果を与えているのかを読み取る。

① (グラフの部分を示し)「グラフのこの部分は、文章の中のどこに書いてあるのだろうか。」

② (文にーを引き)「この文章の一部は、グラフのどこを見て書いたものか、印をつけよう。」

③自分が調べ学習をして発表する場面で図表やグラフも使って発表させる。またどのような効果があるかを考えさせる。(「情報を選び効果的に伝えるには」(教育出版1年))

(参考) 平成19年度全国学力・学習状況調査 中学校国語A **7**



昭和六十三年以降、「週一回以上運動・スポーツを行う者の割合」は年々増えている。また、男女別に見ると、昭和六十年には、男性の割合が女性の割合を大きく上回っているが、だんだんとその差は縮まり、平成六年度にはほとんどその差はなくなった。そして、平成九年度には、女性の割合が男性の割合を上回っている。

【例2 同一テーマを扱う説明文等の共通点、相違点】

①「モアイは語るー地球の未来」(安田嘉憲 光村図書 2年)・「この小さな地球の上で」(手塚治虫 三省堂 1年)は、どちらもイースター島のモアイを題材にした説明文である。この二作品を要約させ、共通点と相違点をまとめさせる。話し合い活動などを取り入れるのもよい。

②異なる新聞に載せられている同じテーマの記事を比較させ、その記事の主旨は何か、その違いは何か、また共通する内容が何かについて表なども用いてまとめさせる。(「論理の展開に着目して読もう」(光村図書 3年))

ポイント

- ・様々な資料を比較して読み取る学習を、国語科はもとより全教科で積極的に取り入れる。その際、共通点と相違点を整理することを徹底させる。
- ・同一テーマを扱う複数の文章(資料)を比べて読む学習を位置づけ、主張のあり方の違いに気づかせるようにする。